

宗教系高等学校の生徒の宗教・倫理に関する意識調査

帝京短期大学こども教育学科

本多 泰洋

Students Mind regarding Moral and Ethics at Religious High Schools

Yasuhiro Honda

Department of Childhood Education, Teikyo Junior College

Abstract : 769 students who studied at Christian and Buddhist high schools in Japan had questionnaire survey about religious education. The result shows that religious education has potential to develop the criterion of moral judgment for their mind.

キーワード : 教育基本法、公教育、宗教教育、学校教育、学習指導要領、道徳、高等学校生徒、質問紙調査.

Key words : Basic Act on Education, Public education, Religious education, School education, Course of studies, Moral education, High school students, Questionnaire survey.

1. はじめに

古代に、人間の力を超えたものに対する畏敬の念から発生したアニミズム的な考え方は、現在でも岩や樹齢を重ねた樹木などには神が宿るとしてお祭りするなど、現代の日本にも連綿と受け継がれている。人間の短い寿命に比べて2桁も3桁も長寿であり、人間が乗り越えられない羨みや驚きや尊敬などが入り交じった感情に対して、畏敬の念と表現されていると考える。6世紀中頃の仏教の公伝と国教化の後、神に対する信仰と仏教を折衷して、一つの信仰体系とする神仏習合の考え方が、日本では広く民衆の間に受入られていた。明治元年になって神仏分離の太政官布告が出された後も現代に至るまで、神仏習合の考え方は日本人の精神構造に大きな影響を及ぼしている。すなわち、神や仏に対する信仰とは別に、人間が乗り越えることのできない事物にあやかって、自身も少しでも健康で長生きできるようにと規範として崇めていると考えられる。そして、たくましく成長し続け長生きするために色々な苦難や逆境を乗り越えて今に至っているに違いないという感情から、人間の倫理観や道徳観の規範として崇めている現象や自然観と見ることができる。

1947(昭和22)年に教育基本法が制定されてから、一部の宗教系の私立学校を除き、学校内での宗教教育は全く行われていない。一つには、太平洋戦争中に天皇を神格化し、現人神としてお祀りし、各学校で子ども達に礼拝をさせた事実の反省が、戦後の教育の中で

宗教をタブー視する大きな原因となっている。また、新しく興された宗教団体の一部で、強引な入信活動が行われたり、オウム真理教が引き起こした弁護士一家殺害事件(1989年)や、松本(1994年)並びに地下鉄(1995年)サリン事件などの一連の凶悪殺人テロ事件の影響から、人々の心の奥底に宗教は危険なものとの認識が根付いていること、あるいは、宗教や教団の教義に縛られて自由な立場で判断できなくなる、金銭的な支出を強制されそうであるなどから、人々が「さわらぬ神に祟りなし」との考えや立場をとっているからであろう。また、その根底の感情には、宗教は個人々々の私的な心の問題であって、公教育の場に馴染むような命題ではないとする考えであろう。

2006(平成18)年12月22日、教育基本法改正案が国会で成立し、その第15条において特定の宗教のための宗教教育や宗教活動以外の「宗教に関する寛容の態度、宗教に関する一般的な教養及び宗教の社会生活における地位は、教育上尊重されなければならない。」と、初めて公教育の中での宗教に関する教育について条文化がなされた。しかし、日本の公立学校では「宗教に関する一般的な教養」に関する教育は、主に歴史教育の中で人間の文明や文化の発展過程の一部として教授されるのみである。しかも、高校では歴史教育を全く履修せずに終了する生徒も多いのが現状である。一方、「宗教に関する寛容の態度」については、教える側が宗教についての知識不足である、教育内容や教育方法が確立されていない、上記のように宗教は危険なもの

の認識、さらには宗教に関する教育をすることのできる人材の絶対的不足などの要因によって、積極的に取り組もうという姿勢はみられない。

欧米諸国、アラブ諸国やアジア諸国は、それぞれの宗教を背景とした文化とともに発展してきた歴史があるが、国際化によって諸外国との交流も盛んになり、宗教に関する一般的な教養の教育の重要性は大きくなってきているといえる。

一方、アメリカやイギリスを中心にしたいわゆるグローバルイズム体制に組み込まれた日本は、経済至上主義、効率追求、全ての判断の基準に利益になるかどうかで置かれ、儲ければ何をしても良いとする風潮などが社会に蔓延し、その風潮の影響が子どもたちの心にも入り込んでいると毎日の講義の中で感じる。

そこで、知識としての宗教ばかりではなく、倫理観や道徳観などの規範としての宗教の果たしている役割を明らかにし、教育基本法第15条の精神を生かすための教育内容や教育方法を考えるための糸口を見付けたいと考えた。

2. 学校教育の中での道徳や宗教的な内容

これまでの学校教育の中では、1958（昭和33）年小学校学習指導要領に道徳が導入され、その教育内容の一つとして「美しいものや崇高なものを尊び、清らかな心をもつ」と、宗教的なことがらを取扱うようになったのが最初である¹⁾。1989（平成元）年に改訂されて1992（平成4）年に施行された小学校学習指導要領からは、それまで箇条書きのように羅列されていた道徳の授業内容が、4つの主項目にまとめられ、各学年の第3番目の主項目の授業内容として「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」として、その教育内容の一つにあげられている¹⁾。その内容は、第1、2学年や第3、4学年では、生命の大切さ、自然や動植物への親しみなど、第5、6学年ではじめて「人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつ」という教育内容が挙げられている。

1958（昭和33）年の中学校学習指導要領で道徳が導入された中学校では、日常生活の基本的な行動様式、道徳的な判断力、民主的な社会および国家の成員の3つの主項目が挙げられ、小学校のように宗教的なことがらを教育内容の一つとして扱ってはされていない²⁾。1969（昭和44）年の改訂では主項目だてを取り払って教育内容を羅列し、そこにも宗教的なことがらは含まれていない²⁾。1977（昭和52）年に改訂されて1981（昭和56）年から施行された中学校学習指導要領の道徳では、内容の記述が羅列的であることに変化はないが、「自然を愛し、美しいものに感動し、崇高なものに素直にこたえる豊かな心をもつ」と、初めて教育

内容の一つとして宗教的なことがらを扱うとされた²⁾。1989（平成元）年に改訂されて1993（平成5）年に施行された中学校学習指導要領からは、現在の指導要領に引き継がれている、自分自身、他の人、自然や崇高なもの、集団や社会の、4つとのかかわりに関することの主項目だてに改められ、第3番目の主項目の教育内容として宗教的なことがらを扱うように挙げられている²⁾。その内容は、生命の尊重、人間として生きる喜び、「自然を愛し、（中略）人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めるようにする」の3つを挙げており、小学校学習指導要領の道徳の授業内容との継続性が見られる。

また、高等学校で道徳が導入されたのは、1960（昭和35）年に施行された高等学校学習指導要領からであるが、高等学校での学校教育のあらゆる機会に、道徳性を高める指導を行い、授業科目として道徳の授業時間を設けることはされていない³⁾。なお、小学校や中学校における道徳の指導も、各教科・科目、特別教育活動、学校行事などのあらゆる学校教育の機会に行うこととされている。

一方、公立の学校教育の中での宗教に関する教育が全く行われてこなかったことから、新しい教育基本法に盛り込まれた宗教に関する教育によってどのような教育効果が期待されるのかを明らかにする必要があると考える。そこで、平常から学校で宗教教育を実施している宗教系の高等学校の生徒に対する意識調査を行い、宗教に関する教育の教育効果を明らかにすることを企図した。

3. 調査方法と対象

無記名の回答による質問紙調査で、宗教系の高等学校の生徒の意識を調査した。高等学校の生徒を対象としたのは、自我も確立し心の問題に対しても主体的に回答をしてくれると予想した結果である。東京都内と静岡県内のキリスト教教育（カトリック）を行う高等学校と、東京都内の仏教教育を行う高等学校に調査の協力を依頼した。なお、参考資料として質問紙調査の内容を本論文末に添付した。また、調査結果の分析をより正確に行うために、教務担当の教員に対する面接調査も行った。

東京都内のキリスト教教育を行う女子高等学校（以下A校と呼ぶ。）で、1年生184人が2007年12月に回答した。静岡県の女子高等学校（以下B校と呼ぶ。）で、2年生86人、3年生85人の計171人が2008年6月に回答した。東京都内の仏教教育を行う共学の高等学校（以下C校と呼ぶ。）では、1年生の男子147人、女子56人、性別無記入1人の計204人、2年生の男子152人、女子55人、性別無記入1人の計208人、3年生女

子1人（恐らく2年の誤記入）、学年と性別無記入1人の合計414人が2008年1月に回答した。学年別の回答数は、1年生388人、2年生294人、3年生86人、学年不明1人の計769人、性別による回答数は、男子299人、女子467人、性別無記入3人の計769人である。宗教教育別では、キリスト教教育を受ける女子生徒が355人、仏教教育を受ける男子生徒299人、女子生徒112人、性別無記入3人の合計769人である。調査結果は、主として単純集計による分析を中心に行った。

4. 調査の結果と考察

(1) 生徒の状況

最初に、宗教系の学校に入学したのはいつかを尋ねた。A校は幼稚園からの一貫教育校のため、13.6%の生徒は幼稚園から、25.5%は小学校1年から、59.2%は中学校1年からで、残りは中学校での編入学者であった。B校は、中学校からの一貫教育校のため、95.3%の生徒は中学校から、3.5%は高等学校からであった。C校は、中学校からの一貫教育校のため、73.9%の生徒は中学校から、23.9%は高等学校からで、残りは中途からの編入学者であった。

全体では、中学校からが75.2%、高等学校からが13.7%、小学校からが6.4%、幼稚園からが3.3%で、調査対象の4分の3の生徒が、中学校から宗教教育を受けていた。

学校選択の理由を尋ねたところ、A校では複数の理由を回答した生徒が15人ほどいたが、家族や親戚の紹介55.3%、家族や親戚が在学している、あるいは在学していた16.6%、自分で見付けたと、塾や予備校の紹介がそれぞれ9.5%であった。B校では複数の理由を回答した生徒が17人いたが、家族や親戚の紹介が52.7%、家族や親戚が在学している、あるいは在学していた18.1%、塾や予備校の紹介8.5%、自分で見付けたと、友人の紹介がそれぞれ6.9%であった。C校では、家族や親戚の紹介が28.2%、塾や予備校の紹介27.9%、自分で見付けた11.9%、その他12.2%、家族や親戚が在学している、あるいは在学していたが9.5%などであった。その他と回答した生徒の記入理由は、受験がらみの理由が半数以上で、積極的な理由では、家に近い、および部活動が数名の他、やりたいことがあるから、仏教の学校だからが1人ずつ見られた。キリスト教教育のA校とB校では、学校選択の理由の大部分が家族や親戚の紹介や在学であったが、C校では37.7%であり、A校やB校では少数であった自分で見付けた（11.9%）、塾や予備校の紹介（27.9%）、先生の紹介（4.3%）などの受験に関係する理由が44.1%と、回答が家族や親戚の紹介とほぼ2分された。

全体では、家族や親戚の紹介40.7%、塾や予備校の

紹介18.9%、家族や親戚が在学13.3%、自分で見付けた10.2%、その他9.6%などであった。性別では、男子生徒では家族や親戚の紹介28.1%、塾や予備校の紹介31.4%、自分で見付けた13.1%、家族や親戚が在学7.8%で、女子生徒では、家族や親戚の紹介47.8%、家族や親戚が在学16.5%、塾や予備校の紹介11.1%、自分で見付けた9.5%などであった。男女の生徒とも家族や親戚の紹介が最も多かったが、特に女子では男子の1.7倍もの数値であった。

(2) 家庭の宗教

家庭の宗教についての質問では、あると回答したのはA校の20.1%、B校の47.9%、C校の35.3%、全体では34.4%、ないと回答したのはA校の70.7%、B校の37.9%、C校の56.0%、全体では55.5%、どちらとも言えないと回答したのはA校の9.2%、B校の14.2%、C校の8.8%、全体では10.1%である。A校（70.7%）とC校（56.0%）では、家庭の宗教はないと回答した生徒が多数を占め、B校では対照的に約半数の生徒（47.9%）が家庭の宗教があると回答している。

また、家庭の宗教があると回答した生徒にその宗教を尋ねたところ、仏教と回答したのはA校の44.0%、B校の78.8%、C校の87.4%、全体では78.1%、神道と回答したのはA校の4.7%、B校の9.4%、C校の7.3%、全体では7.5%、クリスチャンと回答したのはA校の25.6%、B校の10.6%、C校の2.7%、全体では8.6%、プロテスタントと回答したのはA校の18.6%、B校の0%、C校の0.7%、全体では3.2%、その他と回答したのはA校の7.0%、B校の1.2%、C校の2.0%、全体では2.5%である。A校、B校、C校とも仏教と回答した生徒が多数であった。カトリックのキリスト教教育を行うA校で、家庭の宗教がプロテスタントと回答した生徒が18.6%であったことは目を引く結果であった。

(3) 生徒の信仰

生徒自身の信仰について尋ねると、信仰しているがA校の23人12.5%、B校の12人7.0%、C校の45人10.9%、全体では80人10.4%、信仰していないはA校の70.7%、B校の73.1%、C校の78.5%、全体では75.4%、どちらとも言えないはA校の15.8%、B校の18.1%、C校の8.5%、全体では12.4%で、どの学校でも若干の無回答者があった。

また、信仰していると回答した80人の生徒には、信仰している宗教を尋ねると、仏教はA校0人、B校1人、C校34人73.9%、全体では35人43.2%、神道はA校1人、B校1人、C校0人、全体では2人2.5%、クリスチャンはA校9人39.1%、B校10人83.3%、C校3人6.5%、全体では22人27.2%、プロテスタントはA

校10人43.5%、B校0人、C校1人2.2%、全体では11人1.2%、その他はA校2人8.7%、B校0人、C校4人8.7%、全体では6人7.4%などで、若干の無回答者やその他との回答もあった。

一方、全体では75.4%を占めた前問で信仰していないと回答した生徒に、信仰に興味や関心があるかどうか尋ねると、非常にあるはA校8人4.3%、B校1人0.6%、C校5人1.2%、全体では14人1.8%、あるいはA校53人28.8%、B校37人21.6%、C校30人7.2%、全体では120人15.6%、あまりないはA校93人50.5%、B校92人53.8%、C校184人44.4%、全体では369人48.0%、全くないはA校20人10.9%、B校30人17.5%、C校157人37.9%、全体では207人26.9%、無回答はA校10人5.4%、B校11人6.4%、C校38人9.2%、全体では59人7.6%である。どの高校でもあまりないが最も多く半数前後を占め、次いであるとの回答であった。全体では、非常にあるとあるの積極的な回答はわずか17.4%で、あまりないと全くないの消極的な回答は74.9%であり、調査対象生徒全員の56.5%は、信仰に全く関心がないとの結果であった。

(4) 宗教の必要性

宗教の必要性については、非常に必要と思うはA校7人3.8%、B校3人1.8%、C校9人2.2%、全体では19人2.5%、必要と思うはA校82人44.6%、B校71人41.5%、C校112人27.1%、全体では265人34.5%、余り必要とは思わないはA校49人26.6%、B校54人31.6%、C校133人32.1%、全体では236人30.7%、全く必要とは思わないはA校10人5.4%、B校6人3.5%、C校51人12.3%、全体では67人8.7%、わからないはA校36人19.6%、B校35人20.5%、C校105人25.4%、全体では176人22.9%である。全体では非常に必要と思うと必要と思うの積極的な回答は37.4%、余り必要とは思わないと全く必要とは思わないの消極的な回答は39.4%で拮抗している。

(5) 神の存在

神の存在を意識するかどうかを尋ねると、よく意識するはA校16人8.7%、B校14人8.2%、C校43人10.4%、全体では73人9.5%、意識するはA校90人48.9%、B校86人50.3%、C校105人25.4%、全体では281人36.5%、あまり意識しないはA校52人28.3%、B校37人21.6%、C校126人30.4%、全体では215人28.0%、全く意識しないはA校12人6.5%、B校13人7.6%、C校86人20.8%、全体では111人14.4%、わからないはA校14人7.6%、B校19人11.1%、C校52人12.6%、全体では85人11.1%、である。全体ではよく意識すると意識するの積極的な回答は46.0%、あまり

意識しないと全く意識しないの消極的な回答は42.4%でほぼ拮抗している。

(6) 学校の宗教に対する満足度

在学する宗教系の学校の宗教に満足しているかどうか尋ねたところ、非常に満足はA校13人7.1%、B校13人7.6%、C校13人3.1%、全体では39人5.1%、満足はA校115人62.5%、B校78人45.6%、C校77人18.6%、全体では270人35.1%、あまり満足ではないはA校25人13.6%、B校25人14.6%、C校87人21.0%、全体では137人17.8%、全く満足ではないはA校4人2.2%、B校4人2.3%、C校65人15.7%、全体では73人9.5%、わからないはA校25人13.6%、B校50人19.2%、C校165人39.8%、全体では240人31.2%である。全体では非常に満足と満足の積極的な回答は40.2%、あまり満足ではないと満足ではないの消極的な回答は27.3%で、積極的な回答は消極的な回答の1.47倍あり、学校の宗教に対する満足度が高いことが明らかになった。

(7) 学校生活で新たに身についたこと

学校生活で新たに身についたことは何かについて複数回答で尋ねた結果を、表1にまとめた。A校とB校では勉強への集中力という回答が最も多く、A校25.3%、B校35.2%で、全体でも27.4%である。C校では特に身についたことはないという回答が最も多く、38.2%である。

次に多かったのは、A校では特に身についたことはないという回答で、24.0%、全体でも27.9%である。B校で次に多かったのは、リーダーシップを発揮できるようになったという16.1%の回答である。これはB校の3つの教育方針の1つとして「実行力を養う」が掲げられており、その中の教育目標の1つに「責任感と謙虚な心を備えたリーダーシップを養う」とあり、上級生が、新入生の相談にのったり、学校生活の手助けをしたりする制度や、多くの生徒が寮で生活するなどの教育成果と考えられる。C校で次に多かったのは勉強への集中力という回答で、24.5%であった。

3番目に多い回答は、A校とB校ではその他であるが、C校では遅刻・欠席が減ったという15.1%の回答である。

表1. 学校生活で新たに身についたこと

	A校	B校	C校	合計
勉強への集中力	25.3%	35.2%	24.5%	27.4%
遅刻・欠席が減った	9.5%	10.4%	15.1%	12.6%
先生の存在が大切だとわかった	13.6%	13.0%	10.7%	12.0%
リーダーシップを発揮できるようになった	12.2%	16.1%	5.5%	9.7%
特に身についたことはない	24.0%	10.4%	38.2%	27.9%
その他	15.4%	14.8%	6.1%	10.5%

(8) 日常生活で新たに身についたこと

宗教系の学校に入学して日常生活で新たに身についたことは何かについて複数回答で尋ねた結果を、表2にまとめた。A校とC校で最も多かった回答は、友達
の存在が大切だとわかったで、A校16.2%、C校14.6%、
全体でも14.9%である。B校で最も多かった回答は、
人や物の見方・考え方が変わったで、17.7%である。

次に多かった回答はA校とC校では人や物の見方・
考え方が変わったで、A校13.6%、C校13.1%で、全体
でも14.5%である。B校で次に多かった回答は友達
の存在が大切だとわかったで、14.1%である。

3番目に多い回答は各校異なり、A校では親友がで
きた13.3%、B校では人の気持ちを考えるようになった
13.8%、C校では2つの回答がほぼ同数で、挨拶を
するようになった11.3%と、人の気持ちを考えるよう
になった11.2%で、全体では人の気持ちを考えるよう
になったで、12.3%である。

C校で挨拶をするようになったとの回答が上位に
入っているのは、C校の3つの教育目標の1つである
「明るいあいさつの励行」の教育効果と考えられる。友
達の存在が大切だとわかったや、親友ができたなどの
回答は、年齢的な要因が大きいと考えるが、人や物の
見方・考え方が変わったや、人の気持ちを考えるよう
になったという回答の多さは、いずれの高等学校でも
人への思いやりが身についたとの回答が同程度に多い
ことから、宗教系の学校の特徴と推察される。

表2. 日常生活で新たに身についたこと

	A校	B校	C校	合計
早寝早起きをするようになった	6.8%	5.2%	6.7%	6.3%
睡眠を十分取るようになった	2.0%	2.7%	2.8%	2.6%
朝ごはんを食べるようになった	4.2%	3.9%	4.7%	4.3%
体を動かしたり、スポーツをするようになった	6.5%	4.4%	7.9%	6.6%
挨拶をするようになった	10.3%	9.2%	11.3%	10.5%
親や兄弟・姉妹との関係が密になった	2.4%	5.2%	2.1%	3.0%
友達 の存在が大切だとわかった	16.2%	14.1%	14.6%	14.9%
親友 ができた	13.3%	9.8%	9.2%	10.5%
人の 気持ちを考えるようになった	12.3%	13.8%	11.2%	12.3%
人への 思いやりが身についた	10.6%	12.6%	8.5%	10.2%
人や物 の見方・考え方が変わった	13.6%	17.7%	13.1%	14.5%
特に 身についたことはない	1.4%	1.3%	6.9%	3.9%
その他	0.4%	0.3%	1.1%	0.7%

(9) 宗教に関して新たに身についたこと

A校では、学校の標語として「敬神」を、B校では、
教育方針の一つに「魂を育てる」を、C校では、教典
や仏の教えを実践や行動に移す「行学」をそれぞれ掲
げ、学校教育の柱の一つとして宗教教育を前面に打ち
出している。そこで生徒に、宗教系の学校に入学して、
新たに宗教に関して身についたことを複数回答で尋ね
た結果を、表3にまとめた。

各校とも最も多かったのは特にないという回答で、
A校31.6%、B校34.7%、C校71.6%で、全体でも
21.5%である。C校の特にないと回答の多さが目を
ひくが、C校の宗教の授業は高校1年までであること
が影響しているのではないかと推察される。

次に多数を占めたのはA校では賛美歌・ゴスペルなど
に興味を持つようになった28.1%、B校では教会に
行ってみたいとなった20.4%、C校では全体に対する比
率がそれぞれ小さいが、神社に行ってみたいとなった
6.4%と、先祖の祭祀・祭儀・法要やお墓参りに行くよう
になった6.2%が拮抗している。

3番目に多かった回答は、A校では教会に行ってみ
たくなった16.2%、B校では賛美歌・ゴスペルなどに興
味を持つようになった16.9%である。キリスト教教育
のA校とB校では、教会、賛美歌、聖書などに対する
関心の高まりが上位を占め、明らかな宗教教育の影響
が推察される。特にA校では、音楽教育に力を注いで
おり、朝の礼拝、音楽の授業時間、学内の器楽講座、
特別活動などでは賛美歌や宗教曲を扱っており、その
教育効果が現れたものと推察される。

表3. 宗教に関して新たに身についたこと

	A校	B校	C校	合計
神社 に行ってみたいとなった	4.0%	5.3%	6.4%	5.5%
お寺 に行ってみたいとなった	2.4%	4.9%	3.2%	3.4%
教会 に行ってみたいとなった	16.2%	20.4%	4.6%	11.7%
先祖 の祭祀・祭儀・法要やお墓参りに行くようになった	0.4%	4.9%	6.2%	4.3%
聖書 ・祝詞・仏典などに興味を持つようになった	14.2%	10.7%	3.9%	8.4%
賛美 歌・ゴスペルなどに興味を持つようになった	28.1%	16.9%	2.5%	13.1%
特 にない	31.6%	34.7%	71.6%	21.5%
その他	3.2%	2.2%	1.6%	2.2%

(10) 学校の教育内容の良いところ

学校の教育内容で良いと思うところはどんなところ
か複数回答で尋ねた結果を、表4にまとめた。最も多
かった回答は、A校ではクラブ活動29.8%、B校では
ボランティア活動（奉仕活動、バザー）40.8%、C校
と全体では特にないでそれぞれ37.3%、24.3%である。

次に多かったのは、A校では特にない18.1%、B校
では道徳教育（モラル、マナー、社会規範）28.6%、
C校と全体ではクラブ活動でそれぞれ25.3%、21.6%で
ある。

3番目に多かった回答は、A校では道徳教育（モラ
ル、マナー、社会規範）14.9%、B校では宗教教育
5.5%と特にない5.0%が拮抗し、C校と全体では道徳教
育（モラル、マナー、社会規範）でそれぞれ17.8%、
19.9%である。

学習指導要領で定められている特別活動や学校行事
などと、宗教系の学校としての大きな特徴である宗教

教育を同列において尋ねたため、若干焦点がぼやけてしまったきらいはあるが、A校とC校でクラブ活動との回答が上位を占めたのは、学校教育の主旨が順調に実行されていることの反映と解釈できる。

B校では、ボランティア活動との回答が高い割合で最上位を占めているのが注目されるが、先に見たように、B校の教育方針の一つは「魂を育てる」と「実行力を養う」であり、これらの方針を「奉仕」として実現する教育活動が行われている。障害者施設、老人ホーム、公共施設などでのボランティア活動が実行されており、この教育効果と推察される。

A校とC校では上位3位に、B校では2位に、それぞれ道徳教育（モラル、マナー、社会規範）が学校の教育内容の良いところと生徒たちに積極的に評価されており、特にB校の回答の割合が高いのが注目される。C校では、特に宗教色を強く打ち出さないという教育方針をとっているが、学校の人間形成の目標（モットー）としてモラリストを掲げており、その教育効果と推測される。

表4. 学校の教育内容で良いと思うこと

	A校	B校	C校	合計
道徳教育（モラル、マナー、社会規範）	14.9%	28.6%	17.8%	19.9%
宗教教育	7.0%	5.5%	1.1%	3.7%
朝礼	7.0%	2.9%	1.1%	3.0%
ホームルーム・学級活動	5.6%	2.9%	7.3%	5.8%
委員会活動・生徒会活動	2.3%	5.0%	4.2%	4.0%
クラブ活動	29.8%	7.1%	25.3%	21.6%
ボランティア活動（奉仕活動、バザー）	8.8%	40.8%	4.0%	14.8%
特になし	18.1%	5.0%	37.3%	24.3%
その他	6.5%	2.1%	1.8%	3.0%

(11) 学校で宗教に触れての感想

学校で宗教に触れたことによって、よかったこと、つらかったことを記術式で尋ねた。なお、なしや特になしと記入した回答は、記入した生徒数から除外したが、わからないや不明と記入した回答は計数した。よかったことを記入した生徒数はA校184人中44人（23.9%）、B校171人中31人（18.1%）、C校414人中253人（61.1%）、全体では769人中328人（42.7%）である。つらかったことを記入した生徒数はA校69人（37.5%）、B校91人（53.2%）、C校282人（68.1%）、全体では442人（57.5%）が記入した。

各校とも回答の内容は多彩であり、一人の生徒が複数の回答を記入している場合もあり、それらの回答は、類似の回答を類型にまとめて計数した。また、例えば「考えが変わった」と記入した回答では、宗教に対する考えが変わったのか、ものの見方が変わったのか判断できないので、類型としてまとめずに別項目とした。

よかったことの記入項目数は、A校154項目、B校153項目、C校171項目、全体では478項目であった。つらかったことの記入項目数は、A校123項目、B校80項目、C校123項目、全体では326項目であった。よかったことの記入項目数が、つらかったことの記入項目数の約1.47倍であり、生徒が宗教教育に対して全体として積極的な評価をしているのがわかる。以下に、各校の記入の多かった回答の類型を取り上げる。

<宗教に触れたことでよかったこと>

A校の生徒のよかったこと154項目の回答では、「聖書を読むことができた」などの聖書に関連する回答、「キリスト教を知った」と「イエスについて知ることができた」の回答、「神の存在を意識するようになった」と「自分一人ではないと知った」の回答、「教養が身に付いた」や「さまざまな国の文化や宗教を知った」などの知識を得たとする回答が、それぞれ12で最も多い回答であった。次に、「色々な見方があると知った」や「世界観が広がった」などの「視野が広がった」との回答、「つらい時聖書が助けになった」、「お祈りで気持ちが楽になる」、「神とのつながりで心が安定する」、「悩んだ時に祈ることを学んだ」、「人生に絶望した時に希望になった」などの精神的な支えになっているとの回答、「朝の礼拝」との回答、「礼拝の時の賛美歌」との回答が、それぞれ11であった。「(他)人の気持ちを考えるようになった」、「(他)人を大切にするようになった」、「(他)人を助けることができるようになった」、「(他)人に優しくなった」、「思いやり」などの隣人愛に関する回答が9、「クリスマス礼拝に感動」の回答が5、学校のキリスト教教育の目標と回答したのが4、「穏やかになった」の回答、「パイプオルガンを習うことができた」の回答、「教会に通うようになった」の回答がそれぞれ3などであった。なかには、「健康に生きてもらうように念じる手段ができた」と回答した生徒や「沢山ありすぎてあげられない」と回答した生徒もいた。

B校でよかったことは、「見識、視点が広がった」、「(他)人の見方や考え方が変わった」、「普段考えないことを考えるようになった」などの「視野が広がった」との回答が36と最も多かった。次に、「やさしさに触れられた」、「(他)人への思いやりの心を持てた」、「他人のために祈ることができるようになった」、「敵を愛する大切さを学び苦手な人がいなくなった」などの隣人愛に関する回答が24、「宗教の知識」、「教養」、「世界の国のこと」、「他の学生が学べないこと」などの知識を得たとする回答が17、「神の存在を強く感じる」、「一人でも独りにならないと思えるようになった」、「神様の存在を大切に思える」などの神に関する回答が15、「祈

り」や「ミサ」の回答が11、「聖書（の内容）を読む機会」や「キリストの精神」などのキリストについての回答が8、「世界の困っている人に目を向けられるようになった」や「世界のことを考えるようになった」などの隣人愛と視野の広がりを含む回答が7であった。「自分の人間性の基盤ができた」、「つらい時、困った時に心のよりどころとなる」、「目標をもつことができた」などの精神的な拠り所となったとの回答が4、「自分自身の存在の大切さ」や「自分の生きていることに感謝」などの自身の存在に関する回答と、「奉仕の大切さ」や「ボランティア」の回答がそれぞれ3、「道徳（心）」、「マナー」との回答は、それぞれ2であった。

C校で宗教に触れてよかったことは、「宗教の知識を得た」、「宗教の意味が理解できた」、「疑問に思っていたことが分かった」などの宗教に関する知識についての回答が39と、最も多かった。次に多かったのは、「教養を得た」や「公立で学べないことを学べた」などの回答が18で、前者の宗教の知識と教養との回答とを合わせると57であった。開祖の聖人が「どんなことをしてきたのかが分かった」や「伝記」などの回答が、14であった。「別の視点から考えられる力がついた」、「物事を色々な角度から見るようになった」、「他人と自分の考え方の差を実感できた」などの視野が広がったとの回答が、15であった。「(他)人の気持ちが良く分かるようになった」、「(他)人に対する接し方」、「(他)人に対しての考え方」、「やさしくなった」などの思いやりについての回答が、11であった。「(宗教上の理由で)休みが多い」、「通常授業が少ない」、「テスト休み」などの休業に関する回答が、10であった。「礼儀が身に付いた」や、「自然に頭を下げることができるようになった」などのあいさつに関する回答が5であった。「友人の話が聞けるようになった」や、「自分の気持ちを抑えることができるようになった」の回答が2であった。なかには、「幽霊が怖くなくなった」、「お葬式で恥をかかずに済んだ」、「日本史とのリンクができた」などの実利的な回答や、「麻原の気持ちがわかった」との意味不明の回答も見られた。

<宗教に触れたことでつらかったこと>

A校では、朝の授業開始前に礼拝があり、また、日曜日には教会に行くことを奨励し、日曜学校への参加カードを提出させているようである。A校の生徒のつらかったことの123項目の回答数の85の回答、69.1%は、礼拝や日曜学校に関連した内容であった。まず、「朝の礼拝があるので早起ししなければならない」との回答が50、「朝の礼拝」という回答が17と、朝の礼拝に関する回答が半数以上であった。次に多かったのが、

「日曜に早起きして、あるいは、忙しくても」教会にゆかねばならず「休みがない」などの回答で、18であった。「聖書、宗教の教科がある」、「テスト教科が（公立高校に比べ）一つ多い」などの回答で、12であった。中には、「家や親戚の信仰と違う」や、「親戚に非難される」などの深刻な悩みの回答2や、「受験で倫理が使えない」などの功利的な回答も見られた。

B校でつらかったことの80の回答は、特に多数を占める回答はなく分散していた。「ミサが長い」や「ミサが眠い」などの回答で10、「少し（信仰が）押しつけがましい」の回答が7、「宗教間の戦争や争いがあること」の回答が5、「行事の多さ」と「修学旅行が祈りの会であること」の回答がそれぞれ4などであった。

C校では普段、宗教の時間以外は、あまり宗教に関する学校行事や活動などもない様子で、生徒のつらかったことの123の回答のほとんどが、宗教の時間に関する内容に集中している。「(内容が)難かしくて理解できない」の回答が15、「授業」という回答が12などで、「聖訓の暗記」の回答が10、「法話」と「話が長い」の回答がそれぞれ3、「興味がない話」あるいは「同感できないこと」を「聞かなければならない」の回答が3などであった。C校では、オリエンテーションの際に聖地を訪問しているようで、それがつらいとする回答が8、「正座」と「(授業が)眠い」の回答がそれぞれ5であった。さらに、「規則が厳しい」や「決められたルールの中での生活」などの校則に関する回答が7であった。

(12) まとめ

質問紙調査の回答をもとに、宗教系の高等学校に在籍する生徒の平均的な生徒像をイメージすると、次のようになる。家族または親戚の紹介で宗教系の中学校に入学したが、家庭ではこれといった決まった宗教を信仰しているわけではないし、生徒本人も信仰にはほとんど関心はない。しかし、宗教の必要性や神の存在を全く認めていないというわけではない。学校での宗教教育の効果か、学習に対する集中力も養えたし、親友もできた。また、自分でも物事を多角的な視点から見ることができるようになり、視野が広がったと感じている。ただ、朝早くからの礼拝、あるいは法話にでなければならず、公立の学校に通学する生徒に比べ毎日早起ししなければならず、寝不足気味である。それでも宗教の授業時間のお陰か、他人に対する思いやりが大切だと思うようになってきた。また、奉仕活動やモラルのある人間形成などの学校の教育目標や教育方針があるので、これまでは挨拶なんてと思って最初は違和感もあったが、何だか自然に頭を下げる習慣がついたような気がする。クラブ活動も含め、自分の通学

するこの学校の教育には、おおむね満足している。

5. 結論と考察

新しい教育基本法の第15条には、「宗教に関する一般的な教養（中略）は、教育上尊重されなければならない」とある。高等学校の歴史教育の中では、主として開祖の上人や宗教がその時代に果たした社会的な役割について教授される。そこで、どのような教育内容や教育方法をとれば、宗教が倫理観や道徳観などの規範としての役割を果たし得るのかを明らかにしたいと考え、宗教系の高等学校の生徒に対する意識調査を行った。質問紙調査に回答してくれた各宗教系の高等学校の生徒は、普段からキリスト教（カトリック）や仏教の宗教教育を受けているので宗教の知識には詳しく、宗教教育の倫理観や道徳観などの規範としての教育効果を明らかにすることができるのではないかと期待した。

前節のまとめで示した宗教系の高等学校に在籍する生徒の平均的な生徒像は、日本のどこにでも見られる平均的な高校生像と重なる。しかし、大きく違う点は、宗教の時間をかなり肯定的に捉えている高校生像が浮き彫りになったことである。すなわち、宗教に関する一般的な教養の教育は、倫理観や道徳観などの規範を育む教育効果をもつと評価できる。ただ、どのような教育内容や教育方法をとれば、グローバル化体制の悪しき面に影響された子どもたちの心に教育基本法の本質を生かす規範意識を育むことができるかなどの掘り下げた結果については、今回のような質問内容による調査からは、得ることはできなかった。

謝辞

本論文の作成に当たり、多忙な時間を質問者の質問に回答していただいた東京都や静岡県私立の宗教系高等学校（本文中A校、B校、C校と表記）の教員の方々に、感謝申し上げます。また、質問紙調査にご協力くださった各校の教員の方々、並びに生徒の皆さんのご協力に、感謝申し上げます。一部の調査結果を卒業論文とするために調査に協力いただいた西崎麻里奈さんに感謝致します。

引用文献

- 1) 文部科学省、小学校学習指導要領、1958年、1968年、1977年、1989年、1998年、2008年。
- 2) 文部科学省、中学校学習指導要領、1958年、1969年、1978年、1989年、1998年、2008年。
- 3) 文部科学省、高等学校学習指導要領、1960年。
(2009年11月30日受理)

資料

質問紙調査内容

- I. あなた自身についてお答え下さい。
 1. あなたの性別を教えてください。
(1) 女性 (2) 男性
 2. あなたの学年を教えてください。
(1) 高1 (2) 高2 (3) 高3
 3. この学校に入学したのはいつからですか。
(1) 小学校1年から (2) 中学校1年から
(3) 高校1年から
(4) その他、具体的に。()
 4. この学校を選んで入学したきっかけは何ですか。
(1) 家族・親戚の紹介 (2) 学校の先生の紹介
(3) 自分で見つけて (4) 友人の紹介
(5) 塾・予備校の紹介
(6) 家族・親戚が在学していた(している)から
(7) その他、具体的に。()
- II. 宗教についての質問にお答え下さい。
 1. 家庭に宗教がありますか。
(1) ある (2) ない
(3) どちらとも言えない、その理由。()
1-1. 上の1の質問で「(1) ある」と答えた方にお聞きします。
それ以外の方は、下の質問2に進んでください。
それはどのような宗教ですか。
(1) 仏教 (2) 神道 (3) キリシチャン
(4) プロテスタント
(5) その他、具体的に。()
 2. あなたは特定の宗教を信仰していますか。
(1) 信仰している (2) 信仰していない
(3) どちらとも言えない、その理由。()
2-1. 上の2の質問で「(1) 信仰している」と答えた方にお聞きします。
それ以外の方は、下の2-2に進んでください。
それはどのような宗教ですか。
(1) 仏教 (2) 神道 (3) キリシチャン
(4) プロテスタント
(5) その他、具体的に。()
 - 2-2. 宗教を信仰することに興味や関心がありますか。
(1) 非常にある (2) ある (3) あまりない
(4) 全くない
 3. 宗教は人間に必要なものだと思いますか。
(1) 非常にそう思う (2) そう思う
(3) あまりそう思わない (4) 全くそう思わない
(5) わからない
 4. あなたは今、神様の存在を意識しますか。
(1) よく意識する (2) 意識する
(3) あまり意識しない (4) 全く意識しない
(5) わからない
- III. 学校の教育についてお答え下さい。
 1. この宗教系の学校の宗教に満足していますか。
(1) 非常に満足 (2) 満足 (3) あまり満足ではない
(4) 全く満足ではない (5) わからない
 2. この学校に入ったことにより、新たに身についたことはありますか。(複数回答可)
(1) 学校生活で
(a) 勉強への集中力
(b) 遅刻・欠席が減った
(c) 先生の存在が大切だとわかった
(d) リーダーシップを発揮できるようになった
(e) 特に身についたことはない
(f) その他、具体的に()

- (2) 日常生活で
- (a) 早寝早起きをするようになった
 - (b) 睡眠を十分取るようになった
 - (c) 朝ごはんを食べるようになった
 - (d) 体を動かしたり、スポーツをするようになった
 - (e) 挨拶をするようになった
 - (f) 親や兄弟・姉妹との関係が密になった
 - (g) 友達が存在が大切だとわかった
 - (h) 親友ができた
 - (i) 人の気持ちを考えるようになった
 - (j) 人への思いやりが身についた
 - (k) 人や物の見方・考え方が変わった
 - (m) 特に身についたことはない
 - (n) その他、具体的に ()

- (3) 宗教に関することで
- (a) 神社に行ってみたくなった
 - (b) お寺に行ってみたくなった
 - (c) 教会に行ってみたくなった
 - (d) 先祖の祭祀、祭儀、法要やお墓参りに行くようになった
 - (e) 聖書、祝詞、仏典などに興味を持つようになった
 - (f) 賛美歌、ゴスペルなどに興味を持つようになった
 - (g) 特にない
 - (h) その他、具体的に ()

3. 学校の教育内容で、一番良いと思うところはどんなところですか。

- (1) 道徳教育 (モラル、マナー、社会規範)
- (2) 宗教教育
- (3) 朝礼
- (4) ホームルーム、学級活動
- (5) 委員会活動、生徒会活動
- (6) クラブ活動
- (7) ボランティア活動 (奉仕活動、バザー)
- (8) 特にない
- (9) その他、具体的に ()

4. この学校で宗教に触れたことによって、良かったこと、つらかったことは何ですか。

(回答は、恐れ入りますが、記述をお願いします。)

- よかったこと ()
- つらかったこと ()

以上